

滋賀・小谷城城下町遺跡

おだにじょう

- 1 所在地 滋賀県東浅井郡湖北町大字郡上字清水谷
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)六月～一〇月
- 3 発掘機関 湖北町教育委員会
- 4 調査担当者 山崎清和
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 一六世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



小谷城城下町遺跡は、戦国大名浅井氏が大永年間に築城して以来、元亀三年(一五九二)織田信長により滅ぼされるまでの五〇数年間居住した中世の典型的な山城小谷城の麓に広がる遺跡である。

当該調査地は、清水谷と呼ばれる小谷山のほぼ中央部にまで達する開口部約一八〇m、奥行約一kmの谷の入口に位置する。小谷城跡古絵図等によると、清水谷

(長 浜)

古絵図等によると、清水谷

には浅井氏の根小屋、家臣団の屋敷、寺院の存在が想定され、また調査地南・北国脇往還道に沿って「大谷市場」「東本町」「西本町」等の城下町遺跡に関連のある小字名が残る。

調査の結果、北国脇往還道に沿って流れる溝、土壙のほか間口三間×四間の掘立柱建物とその周囲をめぐる幅三〇cm、深さ約一〇cmの溝が検出された。木簡はこの溝及び土壙より出土した。溝内は灰・炭が多量に入っており火災にあったことが考えられる。

8 木簡の积文・内容

(1) 正月□□
八木□□□

百廿五□入□□
[文カ]

(93)×19×4 039



(1)

「」は記号と考えられるが意味は不明。「八木□□□」の三字目は「濱」とも考えられる。最後の文字は「内」、「助」、「物」、「納」などの文字のいずれかではないかと考えられる。この面は「八木□□□」という地名または人名が書かれていた可能性がある。

「百廿五」の下は「文」と考えられる。

(2) ・◇ 九十□□□^{〔入力〕}

・◇ □□□□

113×30×6 032

「九十」の下は、「四」か「五」の数字でその次は「文」とも考えられる。もう片面については文字が薄く判読できない。

両面共、切り込みの下に「◇」があるがこの意味も不明である。

(山崎清和)

木簡研究 第五号

巻頭言——木簡史の研究について——

関 晃

一九八二年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 白毫寺遺跡 藤原宮跡 山田寺跡 阿部六ノ坪遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長岡京跡(4) 仁和寺南院跡 大坂城跡 梶子遺跡 道場田遺跡 野畑遺跡 穴太遺跡 下野国府跡 下野国府跡寄居地区遺跡 長原東遺跡 多賀城跡 弘田柵跡 日野川朝宮橋下流 桜町遺跡 出合遺跡 辻井遺跡 助三畑遺跡 肩脊堀の内遺跡 草戸千軒町遺跡 田村遺跡 高畑廃寺 藤田遺跡 一九七七年以前出土の木簡(五)

藤原宮跡

字訓史資料としての平城宮木簡

——古事記の用字法との比較を方法として——

平城宮出土の衛士関係木簡について

小林 芳規

木簡とコンピュータ

鬼頭 清明

書評・『草戸千軒——木簡——』

田中 琢

彙報

水藤 真

頒価 三五〇〇円 一四〇〇円